

経営比較分析表

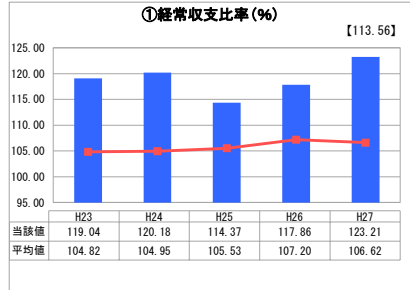
秋田県 北秋田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	91.15	27.93	2,515

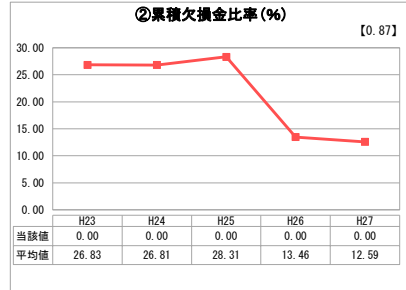
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
34,129	1,152.76	29.61
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
9,472	10.08	939.68

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成27年度全国平均

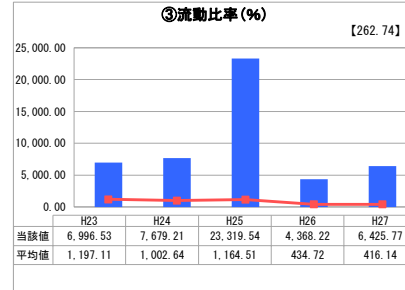
1. 経営の健全性・効率性



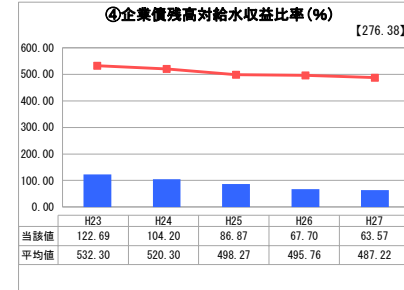
「経常損益」



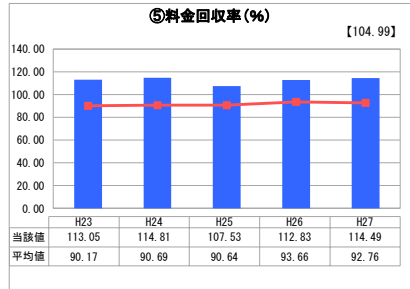
「累積欠損」



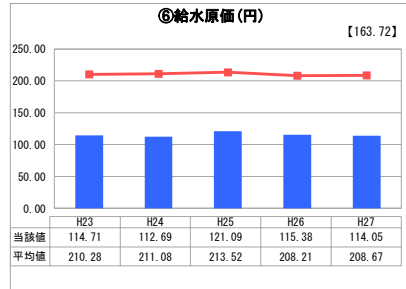
「支払能力」



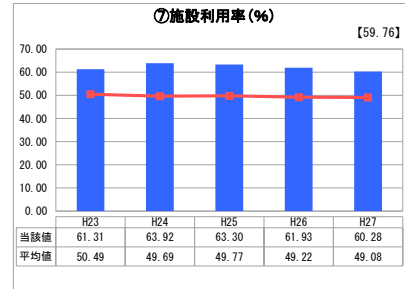
「債務残高」



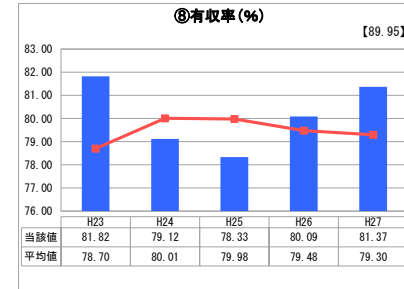
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

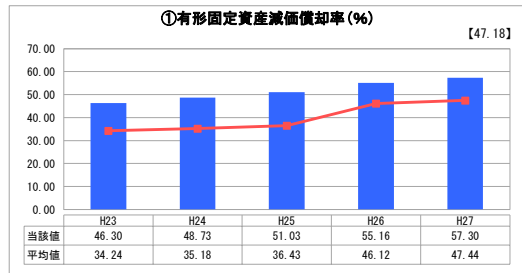


「施設の効率性」

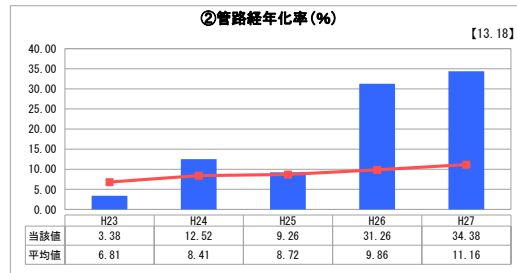


「供給した配水量の効率性」

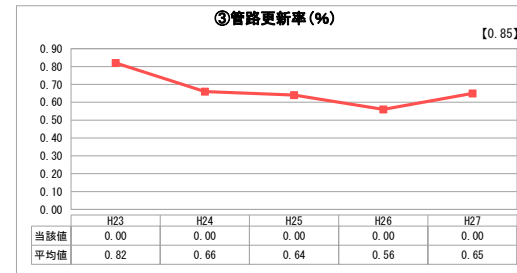
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
昨年同様に100%以上となっており、類似団体、全国平均と比較しても高く、また経常収益では給水収益が大部分を占めており、他会計繰入金等に依存しておらず、健全性を示すものとなっている。
- ②累積欠損比率
欠損金が発生しておらず健全であるといえる。
- ③流動比率
高い水準で推移しており、短期債務に対する現金支払能力は高い状況である。
- ④企業債残高対給水収益比率
新規の借入をしておらず企業債にたよらない経営ができています。
- ⑤料金回収率
100%を超えており、類似団体、全国平均と比較しても高く、給水収益により給水費用を賄っており、適切な料金収入を得られている。
- ⑥給水原価
低い数値となっており、低コストにより供給できている状況を示すものとなっている。
- ⑦施設利用率
類似団体、全国平均より高く、人口減少が進んでいる中においても適度な稼働ができています。
- ⑧有収率
昨年度より微増はしているものの、今後の老朽化対策や維持管理により一層の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 開設から40年以上が経過し、施設の老朽化が進んできている。
平成10年度までに、石綿セメント管の全量更新を実施し、浄水場本館についても平成32年度の稼働開始に向けて新築移転の予定である。
管路の更新については、早急にアセットマネジメントを策定し、漏水の確率が高いと思われる管種及び管路から、順に更新していく予定である。

全体総括

- ①から⑥までの全項目について、経営の健全性を示す数値となっており、「良質な水源の確保により、最小経費で安定供給する」といった企業理念に適った経営となっている。
しかしながら、⑧有収率が類似団体に比して高いとは言えず、老朽化対策や維持管理により、より一層の効率化を図っていく必要がある。
また、経営状況が良好で、剰余金及び内部留保資金も毎年増加しているが、2-③に表れているとおり、裏を返せば「設備更新への取組みが不十分」とも言えることから、老朽化施設の更新費用の平準化及び効率化を図るべく、アセットマネジメントの策定を早急に進めたい。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。